

何かおかしくない？

制度の谷間？「なぜ？」と思うようなことが。

夢に向かって希望する専門課程のある高校に入学し



た高校生。その専門課程は東京都内の私立高校にしかなかったため、横浜から東京に通学していますが、学費支援制度の一部が対象外になります。

2024年度神奈川県私立高校等学費支援

授業料は国の高等学校就学支援金と県の学費補助金が支給されます。県の補助金は授業料分と入学金分があります。

年収270万～590万円未満の例では

授業料補助

国支給額396,000円+県支給額72,000円

=468,000円

入学金補助：県支給のみ100,000円

公立高校授業料

2010年4月から不徴収です。授業料は国の負担。

当時、私立高校には就学支援金を支給しました。

年収によって補助額が変わります。詳細は→



神奈川県補助金支給対象は

「生徒・保護者とも県内在住で、県内の私立高校に通学する生徒が対象」
県外の高校に通う生徒は国支給額しか受け取れません。

東京都補助金支給対象は

保護者が都内に住んでいれば、都外の私立高校に通う生徒も対象。

高齢者のインフルエンザ予防接種でも

横須賀市内の施設しか引受先がなかった方が、施設でインフルエンザ予防接種を受けると横浜市の補助が受けられません。横須賀市にも補助制度はありますが、市内に住民票のある方が対象。



どちらにも、もう少し柔軟に対応出来ないのかな。

市大病院が1病院に集約されます

現在市大病院は、金沢区の横浜市立大学付属病院と南区の市民総合医療センターの2病院があります。

これが1病院に集約されます。



「南区に集約だからいいえ、大問題です！」

なぜ、1病院に？

2病院ともに建設から35年以上が経過し、老朽化による患者の療養環境や最先端医療機器導入、医学部の教育環境等に支障が生じています。

どうなるの？

病院は南区のセンター病院に集約する。医学部の教育・研究施設は米軍根岸住宅地区に整備する。



なぜベッド数を減らすの？

神奈川県地域医療構想では、高度医療を要する急性期の既存病床数が、2025年の必要病床数と比較して116%の供給過剰になっている。

大学病院機能をもつ病院病床数は、病院の機能分化や入院日数の短縮が進むなか、急性期1000床の維持でも経営的に容易ではない。少なくとも現状1400床の維持は現実的ではない。

ベッド数は現在の2病院1400床から1000床程度に。400床も減ります！

2病院統合だから、患者さんも倍に？今でも混んでいるのに、診察はどうなるの？



センター病院は患者の約3割が南区内の病院から紹介されています。

センター病院は南区民にとって「地域医療の砦」



「通院も便利だし、何かあったらセンター病院」と南区民は考えています。

南区には入院できる病院は3病院だけです。そのうち1病院は療養型病院。もう1病院も療養病床があり、一般病床は50床以下。最後の1病院がセンター病院です。

米軍根岸住宅地区の返還時期は、まだ決まっていません。

横浜市は今年度中に基本計画を策定し、25年度に市民意見募集を行った上で計画を確定。工事開始から約15年後の開院をめざしています。



共産党横浜市議団は市大医学部と付属2病院の再整備について、病床数の削減に固執しないで進めること。地域住民などの要望や意見を聞き、合意形成を図ることを求めています。

あらいぎのほやき

日本フィルの定期演奏会の会員になり、年10回あるコンサートを楽しみにしています。

そのチケットはまとめて送られてくるので、大事にお財布にしまっています。7月のコンサートは、別の日に振り替えてもらおうと連絡し、チケットを探したけれど見つかりません。

お財布にたまった領収書と一緒にポイント捨ててしまったような。「あーまたやってしまった！」今頃気づく私にがつくりです。

